は別ないの称音波第1を目指して②

教えるべきことをしっかり教え、成果を保障しながら学習を積み重ねるために、「共通して学ばせること」と「児童が自主的・主体的に活動すること」を明確にすることを念頭において、以下の例を示す。

単元前半の学びを単元後半に活用する学習過程の例

	単元前半	単元後半				
0	感覚づくりの運動(慣れの運動)					
	□体育授業を支える運動、主運動につながる基礎的・基本的な運動、部分練習					
	を行う					
	□質の高さと運動量を確保して、単元全体で、または段階的に扱う					
	□既習技に取り組む	□発展技に取り組む				
	□共通課題に取り組む	□挑戦課題に取り組む				
	□みんなでやってみる	□選んだり、決めたりした活動に取り				
	□個人やグループのスキルアップに	組む				
	取り組む	□チームが勝つための学習、グループ				
		の発表に向けての活動に取り組む				
45	THE CHEESEE					

45分間で学習を積み重ねる学習過程の例

	単元全体			
0	感覚づくりの運動(慣れの運動)			
	□体育授業を支える運動、主運動につながる基礎的・基本的な運動、部分練習			
	を行う			
	□質の高さと運動量を確保して、単元全体で、または段階的に扱う			
	□既習技に取り組む			
	□共通課題に取り組む □ みんなでやってみる			
	□みんなでやってみる			
45	□個人やグループのスキルアップに取り組む			
	□発展技に取り組む 「 児童生徒が自主的。			
	□挑戦課題に取り組む □光がは、オンなりなどがある。			
	□選んだり、決めたりした活動に取り組む 三日子 □ 31 ○ 30 ○ 30 ○ 3 ○ 3 ○ 3 ○ 3 ○ 3 ○ 3 ○ 3 ○ 3 ○ 3 ○			
	□チームが勝つための学習、グループの発表に向けての活動に取り組む			

※ 上記の流れは例示であり、これに限定されるものではなく、児童の実態や運動の特性に応じてバランスを考慮したり、組み合わせたりできる。

「主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業展開」の整理

段階	学習内容•活動	留意点				
導入	集合 \ スイッチ	□姿勢と服装も正すよう促す				
	整列 オン!	┃□「まっすぐに並べている=列」を意識させる				
	健康観察	□顔色を確認するなど、一人一人の健康観察を行う				
	挨拶 1分	分 □自分の声でしっかり挨拶させる □単元全体の位置づけや前時からのつながりを意識				
	前時の振り返り…★					
すぐに、準備運動に入 らずに… 1分		させるにためにも、短い時間で振り返らせる				
		□今の自分の姿や動きを確認(振りさせ、本時の見				
		通しをもたせる				
	準備運動	低学年	中学年	高学年		
	①徒手体操、ストレッ	ズムを大切にした		るようにし、一連の		
		りして思いっきり曲げ伸ばしをする	範囲を広げる	流れで効果的にできる。		
	ームごとのジョギ ング等	学校全体で統一するのもよい。(一部でもよい) 課題となっている運動を年間とおして続けるのもよい。				
	③補強運動					
		□準備運動は、その授業(単元)に必要な運動を取				
	り扱ったり、天候に合わせて					
伊割をはっきりさせ、 安全に素早く!		□準備が終わったあとに、何をするのか(並んで待				
		つのか、既習の運動を行うのか など)を明確に する				
		□用具の準備は大	変だが、運動する	の回数や時間の確		
		保をめざす				
	感覚づくりの運動	□体育授業を支える運動、主運動につながる基礎 的・基本的な運動、部分練習を行う				
	(慣れの運動)					
		□質の高さと運動量を確保して、単元全体で、また				
	5分~12分	は段階的に扱う				
展開	本時のねらいや学習内	□めざす姿や動き(イメージ)をはっきりさせる				
	容の確認	教師の示範	代表児童の示範	が時の細題から		
何を	学ぶか	I C T でモデリング 前時の課題から				
	ちに、【何を身に 付けさせるのか】(を明確にする	本時のゴールは	単元の全体の	位置づけから		

主となる運動に取り組む

先生の「身に付けさせたい」が、 子どもたちの「身に付けたい」へ

【試しの運動】

改めて、今の自分の姿 や動きに気付かせる

【どうすればできるよう になるかについて、働き きかける】 □領域にもよるが、運動学習時間の保障のために、 座り込む場面や時間、集合回数の少ない授業を目 指す

活気があり、学びがあり、伸びがあり、歓声がある 体育を!

□めざすイメージと今の自分のギャップから自己の 課題を発見させる

どのように 学ぶか

- □思考を誘発する発問から、ポイントに気付かせる など、「わかる」「できる」を保障する
- □課題解決の仕方に気付かせる
- □活動を選ばせたり、決めたりさせる

低学年…先生や友達のよい動きから(まねたり、選んだり) 中・高学年…自分の力に合った、自分の課題や特徴に応じて(選んだり・考えたり)

【課題解決に向けて活動に取り組ませる】

たくさんの成果を味わわせる活動を設定する!

【途中指導等】

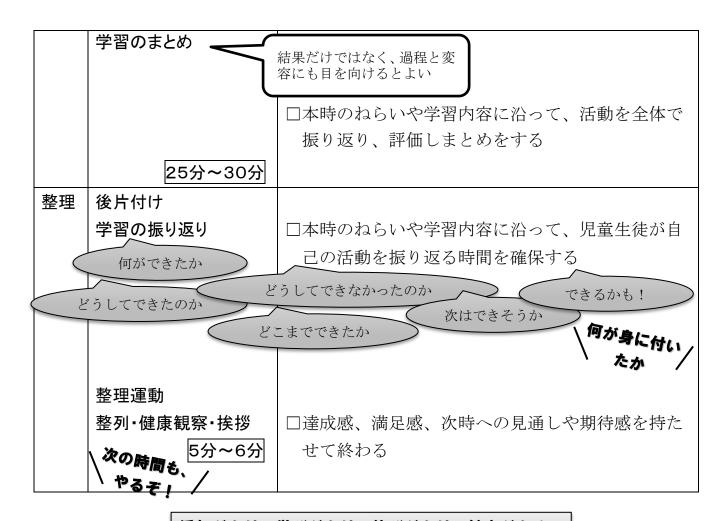
課題達成への更なるヒントを提 示する

「努力を要すると判断される状況の児童への指導の手立て」

発展的な学習内容を提示する 「十分満足できると判断される 状況の児童の具体的な姿」

- □選んだり、決めたりした場で練習させる
- □友だちと見合ったり、話し合ったりして運動させる(明確な視点に基づいて、場や時間、ICT機器等の扱い方を設定して)
- □「どうなったら合格なの?」というイメージやゴールを、教師も子どももわかるようにする(随時、フィードバック)
- □ねらいや学習内容に沿った指導と評価を繰り返す
- □全体指導や個別指導をタイミングよく行い、指導 したことを見届けて評価する
- □わずかな伸びを、大きく認めていく
- □1人の喜びを全員で共有したり、全員で取り組む 集団達成的な要素を取り入れたりしていく

サイス!



活気があり、学びがあり、伸びがあり、歓声がある 体育を!

※ 上記の流れやポイントは例示であり、これに限定されるものではない。